



<記載例>
実際の北海道遺産を見本としていますが、団体名、活動内容等は一部架空です。実際の地域の活動状況とは異なる部分がありますのでご了承ください。

●北海道にとってのストーリー（遺産価値）【過去】

遺産のストーリー

(その遺産は北海道にとってどのような価値を有しているのか)

上土幌のコンクリートアーチ橋梁は、昭和初期に十勝内陸の産業開発を目指した旧国鉄土幌線に建設されたもので、市民と産学官が一体となった保存運動の結果、上土幌～三股間に34橋梁が保存された。道東には数少ない戦前の土木遺産、産業遺産である。

- 厳しい自然条件の中で建設された大きなアーチ橋として北海道で最も古く、他のアーチ橋の手本となった。
- 昭和10年代から30年代と、第2次大戦前から戦後にかけて建設されたアーチ橋が多数残っているため建設技術の変化を知ることができる。
- 周りの景色を壊さないように考えられて設計されていたことや当時の工事記録がしっかり残っている。

構成する資産リスト

- タウシュベツ川橋梁
- 第3音更川橋梁
- 第5音更川橋梁
- . . .

- 遺産の紹介
- 北海道の〇〇を語るのに欠かせない
- 箇条書きでもOK



タウシュベツ川橋梁



第3音更川橋梁

- とくに重要！
- 遺産を活用してどのようなことをしていきたいのか

●アクションプラン【未来】

目指す将来像

(その遺産は将来、地域でどのような存在になるのか)

住民の思いによって残されたアーチ橋梁群を保存活動とおして次世代に確実に引き継いでいくとともに、新しい観光資源、生涯学習の題材等として活用しながら、地域の活性化につなげていく。

具体的なアクションプラン

(目指す将来像を具体的にどのように実現するか)

- 旧国鉄土幌線跡地およびその周辺に残存するアーチ橋梁群の保存・利活用
- 近代化遺産の保存・利活用を志す人たちとのネットワーク化の促進
- 近代化遺産の保存・利活用に関する方法の調査・研究・情報収集
- パネル展やイベントの開催
- 町民の学習活動とおした地域の生涯学習における遺産の活用
- 廃線跡を利用したトロッコ鉄道の運行
- 産業遺産をめぐるツアーの展開 (大規模フットパスのコースづくり) 等を通じて、全国の産業遺産活用のモデルを目指す。

地域づくりとの関係

(その遺産が地域づくりにどのように貢献するか)

アーチ橋梁群を新たな観光資源、全国へ地域をPRする素材として様々な場面で活用していくことで、滞在型観光の促進につなげていく。

- 他の北海道遺産との連携
- 「ほっかいどう遺産WAON」の活用など北海道遺産に関わる企業との連携など

北海道遺産協議会の一員としての取組み

(協議会のメンバーとしてどのような活動の拡がりや発展が期待できるか)

同じく鉄道をテーマとした北海道遺産、あるいは同じ地域の北海道遺産と連携したテーマ・地域型の情報発信、イベントの開催などを行っていきたい。